# 22［評論］『発想法』

　仮にａカンサツする対象を、広い意味で「自然」と呼ぶとすれば、実験室的な自然と野外的な自然とは、どこがちがうのか。野外的自然は、いいかえればありのままの自然である。これに対して①実験的自然は、ありのままの自然のなかから、操作を加えて人工的自然をつくることである。ありのままの自然と人工的自然のちがいがそこにある。しかしこれは逆にいうと、実験科学者たちが、次のように表現するのとおなじことである。

　実験科学者たちの考え方では、実験室のなかの自然が②「純粋な自然」だという表現をする。そのｂリュウギをうけいれるなら、野外的自然は、③「不純な自然」ということになる。純粋な自然か不純な自然かという表現もできるし、人工的自然か、ありのままの自然かともいえる。つまり実験室で対象になる自然は、自然のごく少数の選ばれた要素を純粋に取り出そうということである。そこに実験科学の方法の分析的性格がある。［　　Ａ　　］、野外的自然がｃアツカうのはありのままの自然であり、そこではほとんど数えきれないぐらいの複雑な自然の諸要素がからみあっている。それは分析的研究をするためには適しない対象であり、きわめて複合的な性格を持っている。

　また、実験室のなかで研究対象になる自然は、なんども繰り返して再現することができる。ｄハンプクが可能である。すくなくとも研究目的に対しては、反復が可能としてアツカってよい。それに対して野外的自然は一回性をｅオびている。これは歴史的に二度と同じ状況が繰り返されないことを意味する。またそれとおなじ現象がおこることは、他の地域ではありえない。場所的一回性がある。［　　Ｂ　　］歴史的、地理的一回性をオびている。これは別の言葉でいうなら、個性的な自然ということもできる。

　たとえばフランス革命は歴史上、一度しかおこらなかった。おなじようなことはそれ以前にもけっしてなかったし、これから先にも二度とはおこらないだろう。また北海道は地球上どこにもない地域で、北海道だけにしかない、一回性的、個性的なものである。また、ある会社や職場で、ある特定の意地の悪い部課長がいるという現場の状況は、ここのほかに世界中どこにもない。それがありのままの自然、あるいは野外的自然というものなのである。

　④このような野外的自然を研究の対象にしなければならない必要性がある。学問でいっても、［　　Ｃ　　］歴史学でフランス革命を研究する。それは一回性的、個性的なもので、もう一度それがおこるという可能性はないが、しかもそれを対象に研究しなければならない。あるいはまた、経営学のコンサルタントがある企業、職場を研究する。その職場は、そこだけにしかない野外的自然であり個性的な世界である。しかもひじょうに［　　Ｄ　　］な世界である。これを研究するのが、野外科学と呼ぶにふさわしい分野であり、またそれにふさわしい研究方法が求められなければならない。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　空欄Ａ〜Ｃに入る最も適当な語句を次から選べ。4点×3

ア　かりに　　イ　つまり　　ウ　たとえば　　エ　だから　　オ　ところが

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕

問２　傍線部①について、「操作を加える」とはどういうことか。本文中の語句を用いて三〇字以内で説明せよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部②・③には、なぜ「　」がついているのか。その説明として最も適当なものを次から選べ。6点

ア　実験科学者の主張の正しさを強調するためで、筆者もその立場に同調しているから。

イ　実験科学者の立場からとらえたもので、ある限定をもって用いられているから。

ウ　実験科学者の情熱の純粋さを強調する表現であり、分析科学への情熱を讃えたいから。

エ　実験科学者の考え方をただ単に紹介するだけで、それ以上何の意図も持っていないから。

オ　実験科学者の見方を強調することで、新しいものの見方ができることを伝えたいから。

〔　　　〕

問４　傍線部④とは、どのような自然のことか。本文中の語句を用いて二点、それぞれ二五字以内で説明せよ。7点×2

・〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

・〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　空欄Ｄに入る最も適当な語句を次から選べ。5点

ア　自然　　イ　可能　　ウ　複雑　　エ　純粋　　オ不純

〔　　　〕

問６　本文は何について述べた文章か、二〇字以内で答えよ。6点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

漢字　ａ観察　ｂ流儀　ｃ扱（う）　ｄ反復　ｅ帯（び）

問１　Ａ＝オ　Ｂ＝イ　Ｃ＝ウ

問２　自然の中からごく少数の選ばれた要素を純粋に取り出すこと。（28字）

問３　イ

問４　複雑な要素がからみあった複合的な性格を持った自然。（25字）

　　　歴史的地理的に一回性を持った個性的な自然。（22字）

　　（傍線部の内容がなければ、それぞれ4点減点）

問５　ウ

問６　実験室的な自然と野外的な自然のちがい。（19字）

■覚えておきたい語句

□５流儀……………………仕方。やり方。

〔要　約〕

「実験的な自然」と「野外的な自然」の違い①・②（2・3段落）を中心にまとめ、そこから導き出される内容（5段落）を加える。

　　　　↓

実験室的な自然は、人工的・分析的で反復可能であるが、野外的な自然は、複雑で複合的で、また歴史的地理的一回性を帯びた個性的な自然である。これを研究するのが野外科学であり、それにふさわしい方法が必要だ。（99字）

〈筆者＆出典〉川喜田二郎（かわきた・じろう）一九二〇年（大正９）〜二〇〇九年（平成21）三重県生まれ。地理、文化人類学者。京都大学卒業。ネパール研究の第一人者。豊富な野外調査の経験をもとに、情報整理の発想のための手法としてＫＪ法を開発。ブレインストーミング後の整理法として、野外科学のみならず企業などでも広く応用されている。本文は、『発想法─創造性の開発のために』（中公新書、一九六七年）より。

【読みのセオリー】

★括弧「　」の働き

　次のような働きがある。

①　会話であること。

②　引用、表題などであること。

③　強調したい言葉であること。

④　本来の意味とは違うことを示したいとき。あるいは、言葉を文字どおりに受け取ってはいけないということを示すとき。

注意を要するのは④の働き。

■読みのセオリー［実践］括弧「　」の働き

問３　傍線部②・③の括弧「　」の働きは、右の①〜④のどれかにあてはまるか考えよう。

［１　　　　　　　］の考え方では、実験室のなかの自然が ②「純粋な自然」と表現をする。

そのリュウギをうけいれるなら、野外的自然は、③「不純な自然」。

　　　　　⇔　違う立場

　筆者は、［２　　　　　］であり、野外的な自然こそが、［３　　　　　　］の自然だと考えている。

　　　　　↓

　よって、傍線部②・③の括弧「　」の働きは［４　　　　］である。

〔解答〕　１実験科学者　２野外科学者　３ありのまま　４④

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問７　１行目「実験室的な自然」とは、本文によれば、どのような自然か。本文中の語句を用いて二点、それぞれ二五字以内で説明せよ。

　［答］▽自然のごく少数の要素を純粋に取り出した人工的自然。（25字）

　　　　▽研究目的に対して反復が可能で再現できる自然。（22字）

＊新問〈第１段落の最後の一文を脱文とした上で〉

問８　次の文は、本文に戻すとしたらどこへ入れるのがふさわしいか。入れる箇所の直前の五文字を答えなさい。

　「しかしこれは逆にいうと、実験科学者たちが、次のように表現するのとおなじことである。」

　［答］　こにある。